

部活動改革と心田開発 第四回

～ 新年度 地域部活 六年目の春到来 ～

齊藤 勇

円形組織の考え方をもとに始動

四月下旬から休んでいた部活動も、大型連休明けの十一日に活動を再開。新入部員を迎え、今年度の活動が本格始動しました。

日本初の文化系・地域部活、掛川未来創造部パレットも六年目の春到来です。自己紹介を全員した後、別室に移った一年生と二年

生は、円形組織のペーパー資料を受け取って、サポート役の三年生数名と一緒に、最初に組織の概念の説明を受けます。

次に実習が始まります。資料に描かれた円周の上に、まず一点を決めて、そこに自分の



2023年5月 新入部員を迎えた地域部活パレット

名前を書き

ます。続いて、一緒にいる周りのメンバーが立つ位置を決めて、名札を確認しながら名前を書いていきます。さらに、

これまで卒業した先輩の人数(四二名)をOBGの点に書き、次に見守り担当の大人スタッフが自己紹介後に名前を、最後に理事長(私)の名前を書き加えていきます。

自分の手でメンバーやスタッフの名前を書きこんでいくことで、名前を覚えるだけでなく、自分の居場所が確かにここに在ること



円周の上に自分、メンバー、スタッフの名前を書く

と同時に、先輩や大人も上下関係はなく、みな同じ位置に居ることを意識できます。

多彩なジャンルが一つに融合

大型連休に入る前、四月に実施した体験入部の様子を紹介します。

体験入部に参加した新一年生一人一人が興味を持つジャンルを体験できるように、全体で一つの物語を台本にします。台本は、三年生が短時間で仕上げ、絵やイラストを描いたり、ダンスを踊ったり、声の表現(声優)で参加したり、それぞれの持ち味を発揮します。録音や撮影も部員たちが操作し、それを一本の映像作品に仕上げるために三年生がパソコンで映像編集を担当しました。



タブレットで台本を見ながら声を収録



ダンスの撮影、カメラも部員が操作



パソコンを使って映像編集



完成した映像を観る一年生

今回、アート、ダンス、声の表現、映像編集など多彩なジャンルのメンバーに加え、台本を書きながら演出をするメンバーが一つの部屋に集まってコラボ作業を体験する試みです。他のジャンルのメンバーの活動を、共同制作の過程の中で間近で見ることができ、お互いを感じるものがあつたようです。「その技はどこで磨いたの?」「すごいなあ」と、お互いを認め、各所で称賛する声が聞こえてきたのです。これまでは初めからジャンルごとに活動場所を分け、交流も限られていたため、完成品のステージ発表の場で初めて見るケースが大半でした。そこに至るプロセスはブラックボックス化している状態といえます。今回、共通の台本がある中、それぞれの役割を担当しながらも、一つの部屋

に居て、同時併行で動いている他の作業を見学することがあったり、自分の役割が終わった後は、作業中の映像編集の画面を注視したり、これまでにない様子が見られました。全員が一つの円周の上に立つこと、個々の持ち味、特技、自分とは異なる魅力を相互に認め合うこと、今回の体験入部の一部始終は一円融合と万象具徳をそのまま体現化しているように感じます。

円の中心点をなす二重構造

掛川未来創造部は中学生による地域部活動です。パレットの部員たち自身が、部活動を通して、こういう気分になりたい、こういった楽しい思いをしたい、など個々に願う思いがあります。それらの似た部分を集約しながら共通の価値観を見出していくことで、メンバー全員で共有できる思いを部活の理想として円の中心に位置付けます。

その基本は「選択の自由」から得られる楽しさにあります。上下関係がないこと、強制がないこと、参加度の熱量を同等に求めないこともありますが、さらに根源的なところで、

自分があるのままで居られる安心感と居場所があることの充足感、さらに、一緒に活動する仲間の存在、共に過ごせる居心地の良さがあります。部活の二時間がアツという間に終わる印象です。創造性は上意下達の縛られる環境下では生まれにくいといえます。

もう一つ、円の中心点の更に中心にはパレットを運営するNPO法人 日本地域部活動文化部推進本部（略称・ポッカ）の経営理念が存在します。地域と共に発展する持続可能な部活動を地域部活と捉えていることを伝えていきます。メンバーは、部活内で自分が楽しいこと、やりたいことへの挑戦で得た自信や経験を活かし、次のステップでは文化的な活動を通して地域の役に立つこと、自主的・主体的に地域貢献をすること、自分を育んでくれる地域への「報恩」を掲げています。

『一円融合を基とした文化部活動改革を通じて、行動的市民を各地に輩出し、全国の地方創生に寄与する』がポッカの経営理念です。今回は今年度、中学生の地域部活を起点に、地域を舞台に新たに展開する創造的な事業にフォーカスしていきたいと思っています。